

日立

サイバー人材育成支援

ネクストベース加盟行で開始



集合形式で行うサイバー攻撃演習のイメージ(日立提供)

日立製作所(東京都)は、地域金融機関向けにセキュリティ人材の育成支援を強化する。5月から、勘定システム「NEXTBASE」(ネクストベース)を利用する地域銀行10行に対し、オンライン講座や座学、実践を想定した訓練を包括的に提供。サイバー攻撃の巧妙化に対処できるセキュリティレベルの底上げを目指す。

地域金融機関でセキュリティ(事案)対応能力を育リテーター対策を担う。醸成する。研修はグループマネジメントや実務・リーフ会社の日立ソリューションズ・クリエイトが担い、情報セキュリティ

リテーターの資格認定を行う国際団体「電子商取引コンサルタント国際評議会」で認められたホワイトハッカーが講師を務める。

オンライン講義では、独立行政法人情報処理推進機構(IPA)の「情報セキュリティ10大脅威」に基づいた攻撃の概要や、実際にビジネスメール詐欺で送られてきたファイルを開封した時の様子、システム復旧に必要な技術などを伝える。月1回の対面講義で、参加者同士の意見交換も行うスキルを底上げできる機会にしたい考えだ。

演習は東京都内施設で、自治体や重要インフラ事業者らが利用する国立研究開発法人情報通信研究機構(NII)の「実践的な防衛演習をベースに行う。代表的なマルウェア(悪意のあるプログラム)「エモテット」での攻撃を想定し、封じ込めや証拠保全といった初動対応から復旧、振り返りまでの流れを体験できる。

日立ソリューションズ・クリエイトセキュリティビジネス本部の和田明利主管技師長は「セキュリティベンダーに対応指示や会話のできる戦略マネージャ層を育成したい」と語った。